様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：２１３０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５６０６４２

研究課題名（和文）近世期の北陸地方河川沿いにおける御蔵所の空間構成に関する研究

研究課題名（英文）Study on spatial structures of Okura-syo located along rivers in Hokuriku region in the Edo period

研究代表者
相模　誓雄（SAGAMI, Chikao）

宮城大学・事業構想学部・助教

研究者番号：２０２９５４０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,200,000円、（間接経費）　660,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、北陸地方における諸藩の御蔵所の見取図等の史料の所在を把握できたこと。第二に、それらの史料を用いて長岡藩、加賀藩、福井藩、勝山藩の御蔵所や越後国における郷蔵所の空間構成の共通性、型式とその形成要因を明らかにしたこと。第三に、加賀藩について、国による型式の違いを明らかにしたこと。第四に、九頭竜川流域における御蔵所の空間構成の共通性と藩による違い、それらの原因を明らかにしたことである。近世史及び日本建築史研究における空白部分を埋めるもとともに、地方から見た近世期の日本建築の普遍性や多様性の一端を示し、新たな研究の領域を広げた。

研究成果の概要（英文）：First, the existence of historical materials including plans of Okura-syo located in domains in Hokuriku area was confirmed. Second, by using the materials, commonalities of spatial structures, types and forming factors of Okura-syo built in Nagaoka Domain, Kaga Domain, Fukui Domain and Katsuyama Domain as well as Gogura-syo built in Echigo Province were identified. Third, the research revealed that Okura-syo showed the differences in types depending on provinces in Kaga Domain. Fourth, with regard to Okura-syo built along the area of the Kuzuryu River, commonalities of spatial structures and the differences determined by domains, as well as reasons for the fact were identified. The research also succeeded in filling the blank period in the history of the Edo period and the Japanese architectural history, showing a part of universality and variety of the Japanese architectures built in the Edo period from the viewpoint of rural area, as well as expanding the sphere of new research.

研究分野：建築史・意匠

科研費の分科・細目：日本建築史

キーワード：建築史・意匠　防災　環境

１．研究開始当初の背景

近世期の諸藩の施設については多くの調査・研究の蓄積があるが、河川沿いに設けられた水運施設の御蔵所（年貢米の徴収・保管・廻米を行うための御蔵、検査所、番屋等を有する施設）については建築遺構が殆ど遺されていないこともあり本格的な研究はなされてこなかった。一方、筆者は、御蔵所について東北地方を調査範囲とし、史料を用いた空間構成の観点からの研究を試みていた。御蔵所は藩が廻米を運営した他の地方の河川沿いにも見られるものであり、今後の研究の展開が期待できた。

２．研究の目的

本研究は、御蔵所の空間構成に関する研究を北陸地方について行なうものであった。これまでの東北地方における筆者の研究によって、御蔵所の空間構成要素・施設や空間構成は、地域によって異なる部分と共通する部分とがあることがわかっていた。近世期の北陸地方河川沿いにおける御蔵所の地域性とその原因、空間構成原理を解明することを目的とした。

３．研究の方法

(1)各御蔵所の空間構成の実態把握：藩政後期の北陸地方の河川沿いに存在した諸藩の御蔵所の所在を確認し、それぞれの御蔵所についてその建物配置を明らかにする。御蔵所の建築遺構については、当時の御蔵所の姿が完全に保存される例はない。御蔵がわずかに現存する程度であることが予想される。従って、調査は建物配置が知られる絵図や文献史料の収集が中心となる。

(2)御蔵所の類型化：(1)で確認されたそれぞれの御蔵所について空間構成要素・施設を抽出する。そして、それらの要素及び、配置の共通性を見ることで類型化が可能となる。空間構成要素は、これまでの東北地方における研究によって敷地内については主に御蔵、検査所、番屋、周囲については囲い・門、屋敷林があることがわかっている。敷地内の要素のつくりや配置は地域よって異なっており、地域性が表れる部分として注目される。

(3)類型の分布の検討：(2)の全ての類型の分布図を作成し、一類型が一藩領内に分布するものか、一河川流域に分布するものかを見る。これまでの東北地方における研究では、前者によって類型化されることがわかっている。つまり、御蔵所の空間構成は、藩の施策による影響が大きかったのである。北陸地方においても同様な結果が予想される。

(4)類型を比較し、御蔵所の地域性とその原因、空間構成原理を解明：類型の比較によってそれぞれの類型に固有な空間構成及び、全ての類型に共通する空間構成が明らかになる。さらに、それぞれの類型に固有な空間構成の意味の検討から御蔵所が地域性を持つに至った主たる原因、全ての類型に共通する空間構成の意味の検討から北陸地方の御蔵所の空間構成原理を解明する。

４．研究成果

(1)新潟県

本県（越後国）は、長岡藩などの諸藩領や幕府領であった。上越地方においては、関川河口・直江津湊の高田藩御蔵所の見取図、幕府領２ヶ村の郷蔵所（年貢米を上納するまでの間保管する蔵、検査所を有する。村毎に設けられた）の見取図が確認できた。中越地方においては、長岡藩の城下及び周辺、栃尾組の御蔵所の見取図等、村松藩や与板藩の御蔵所（各１ヶ所）の敷地と建物が絵的に描かれた町絵図、２ヶ村の郷蔵所の見取図などが確認できた。下越地方においては、信濃川河口・新潟湊の新発田藩沼垂御蔵所や長岡藩御蔵所の見取図、長岡藩御蔵所（１ヶ所）の敷地と建物が絵的に描かれた町絵図、村上城の御蔵の輪郭のみが描かれる城下絵図、２ヶ村の郷蔵所の見取図、郷蔵所が描かれる１ヶ村の町絵図を確認した。なお、藩の御蔵所の建築遺構は見られなかった。

以上の成果から、長岡藩御蔵所や越後国における幕府領や幕府寄りの藩領の郷蔵所の空間構成の共通点と相違点、それぞれの要因

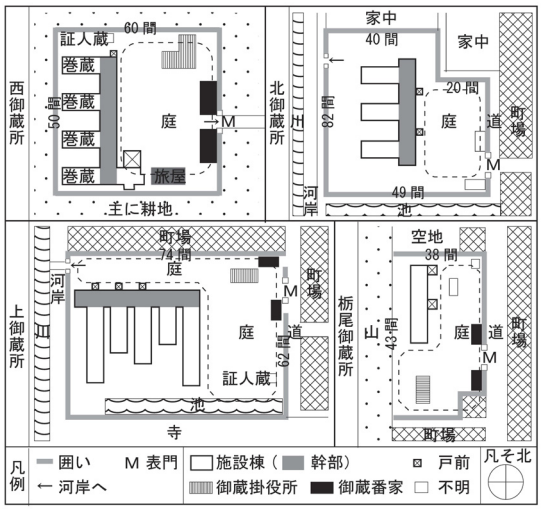

図１　長岡藩御蔵所の比較図

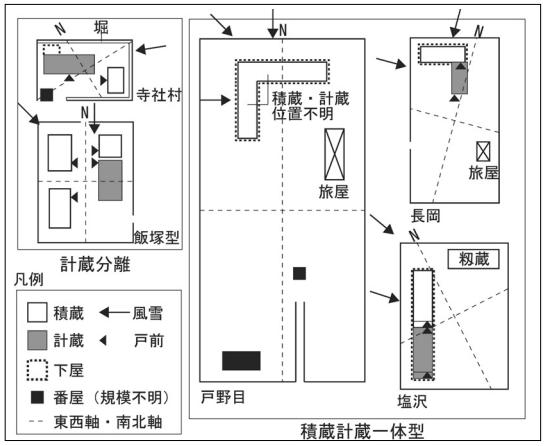

図２　越後国における郷蔵所の略図・型式

について検討した。長岡藩御蔵所については、４ヶ所の御蔵所を対象とし比較したところ、御蔵や検査所などが一体となった独特の形態を有した棟（施設棟）が敷地の西側や北西側に位置し、門寄りの番屋などから離して配置される点が共通していた。風向きの特性や周辺の土地利用などからその要因として、防火などがあげられた。一方、施設棟の形態が、主たる三組（西組、北組、上組）の御蔵所と栃尾御蔵所とで異なっていた（図１）。越後国の郷蔵所については、６ヶ所を対象とし比較したところ、どの郷蔵所にも積蔵と計蔵（検査所）があったが、計蔵分離型と積蔵計蔵一体型に分けられた。さらに、前者には、複数の村の積蔵が１つの敷地の中にそれぞれ設けられた例があり、飯塚型とした。どの郷蔵所においても積蔵は風雪に配慮されて配置されたが、降雪量の多い地域では、積蔵計蔵一体型になったことがわかった（図２）。

(2)富山県

本県（越中国）は、加賀藩領と支藩の富山藩領であった。大半を占める加賀藩領において御蔵所の見取図が多数確認できた。１６ヶ所の御蔵所を対象とし比較したところ、Ｌ型、平行型、囲い込み型の３つに類型化された（図３）。各型式に見られる空間構成の要因を、規模の拡大や領民のための作食蔵、御蔵の種別（本御蔵、中出御蔵）の観点から検討したところ、前者については、Ｌ型や平行型の多くは、規模の拡大が空間構成に及ぼす影響が少なかったのに対して、囲い込み型や平行型の一部は、規模の拡大によってそれぞれの型式になったことがわかった。その要因として、作食蔵の存在などがあげられた。後者については、本御蔵であるＬ型の要因として防衛、中出御蔵が多いその他の型式の要因として物資運搬の条件、つまり、御蔵の種別によって異なる役割の違いがあげられた。なお、藩の御蔵所の建築遺構は見られなかった。

(3)石川県

本県は、加賀藩領の能登国と、加賀藩領と支藩の大聖寺藩領から成る加賀国から成る。なお、両国には幕府領の村もあった。

能登国においても、御蔵所の多数の見取図が確認できた。１６ヶ所の御蔵所を対象とし比較したところ、平行型と囲い込み型があり、前者はＡ型、Ｂ型、Ｃ型、ＡＢ型の４つに類型化された（図３）。越中国における加賀藩御蔵所と比較したところ、越中国の平行型の殆どはＡ型であった。一方、能登国においては、Ｂ型が最も多く、半島の内浦に見られた。囲い込み型は、能登国にも１ヶ所見られたが、作食蔵を有する点が共通していた。さらに、各御蔵所の周辺環境（御蔵所の集落における位置、海岸や幹線道路との繋がり、内浦と外浦とで異なる気象）を見た上で、それぞれの型式の決定要因を、海防などの社会的条件、半島の地理的条件、物資運搬の観点から検討した。能登国は防衛に十分に配慮する必要がある社会的条件を有し、平行Ｂ型の決定要因は防衛、一方、風の強い地域である外浦に見られる平行Ａ型は防火を優先する必要があり、その決定要因として防火があげられた。平行ＡＢ型の事例は、陸送に頼る特殊事情から、その決定要因として物資運搬があげられた。

加賀国においては、御蔵所の見取図が少なかったが、城絵図や町絵図の多くにも御蔵所が描かれていた。また、藩庁の金沢城、一国一城令の例外の小松城があり、これらの郭内にも複数の御蔵所があった。城と町や村の１１ヶ所の御蔵所を対象とし比較したところ、まず、城の御蔵所は、町や村の御蔵所とは異なる空間形成の規則性を有しており、一概に比較できるものではないことがわかった。次に、町や村の御蔵所は、他国に見られない庭分離型が最も多く、囲い込み型も２ヶ所見られた（図３）。各型式に属する御蔵所には、次の空間構成の共通性が見られた。庭分離型の場合、門が面する庭と御蔵の戸前が開かれる通路全体とが視覚的に分断されていた。囲い込み型の場合、領民のための備荒倉の増築が型式形成に影響した。なお、両国に藩の御蔵所の建築遺構は見られなかった。

(4)福井県

本県は、越前国と若狭国から成る。それぞれ諸藩領であった。越前国では、福井藩城下の御蔵所の鳥瞰図や、勝山藩御蔵所（１ヶ所）の見取図が確認できた。福井藩御蔵所については、御蔵所の建物が描かれた町絵図も複数

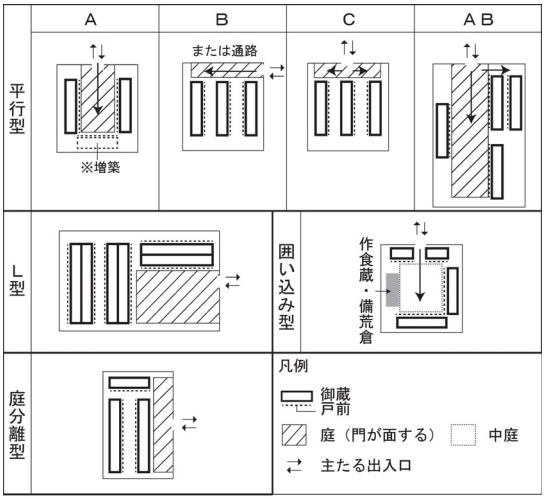

図３　加賀藩御蔵所の型式

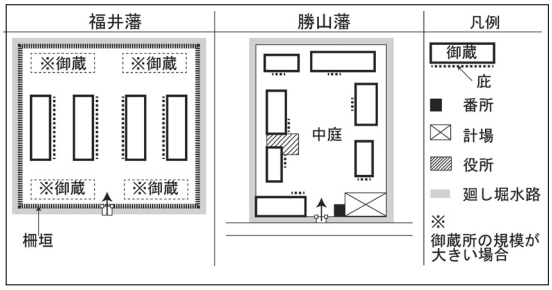

図４　福井藩御蔵所の型式、勝山藩御蔵所の略図

確認できた。一方、若狭国では、小浜藩領において城内の御蔵所が詳しく描かれる城絵図があるのみであった。

以上の成果から、九頭竜川中下流域における福井藩御蔵所３ヶ所の共通点を見た上で、同上流域における勝山藩御蔵所との空間構成の比較を行った。どちらの藩の御蔵所も立地や周囲の設備（水路）が共通していた。一方、御蔵の配置、空間構成要素（役所、検査所）、蔵や庇の大きさ、中庭の有無といった相違点が見られた（図４）。これらの原因を、流域の気象条件、藩の石高や組織、年貢米収納、物資運搬の観点から検討したところ、共通点については防火、相違点については、豪雪地帯における降雪量の違いなどがあげられた。なお、両国に藩の御蔵所の建築遺構は見られなかった。

(5)北陸地方全体を通して

北陸地方には、御蔵所の建物配置が知られる史料が保存されている地域が比較的多くあり、それらの地域では、市町村誌などの郷土誌においても御蔵所が取り上げられていた。その代表的な地域は加賀藩領であり、上記のことから御蔵所の型式の国毎の比較が可能であった。なお、御蔵所は、河川沿いばかりでなく、海沿いにも多く見られたので、対象を広げて検討した。また、越前国の九頭竜川流域においては、流域における藩毎の違いや共通性について検討できた。地域性に関しては、藩毎や国毎に御蔵所の型式の違いが見られた。空間構成原理に関しては、防火、防衛といった御蔵の配置に影響を及ぼす、最も重要な要因があげられた。

背景や目的で述べた通り、本研究は、近世史及び日本建築史研究における空白部分を埋めるものであり、地方から見ることで日本建築の普遍性や多様性の一端を示せた。本研究が我が国の学術に与える影響は今後の評価を待たねばならないが、文学などの研究の対象となる史料（絵図、古文書）を工学や地理学的な視点から検討する手法によって、新たに研究の領域を広げることもできたように思う。

加賀藩は、越中国、能登国、加賀国それぞれの国土に大半を占める領地を有した。加賀国の御蔵所に関する論文の審査の結果を待って、国による違いの原因について発表したいと考えている。また、平成２６年度から、新たに科研費助成を受けたので、山陰地方についても調査し、日本の豪雪地帯によく表れると考えられる、地方における諸藩の御蔵所の空間構成原理及び地方性について総括を行う予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計６件）

①相模誓雄、近世期の能登国における加賀藩御蔵所の型式の決定要因、日本建築学会計画系論文集、査読有、78 巻 688 号、2013 年、pp.1389－1397、https://www.jstage.jst.go.jp/browse/aija/-char/ja/

②相模誓雄、近世期の九頭竜川流域における御蔵所の空間構成に関する研究－福井藩と勝山藩の比較から－、日本建築学会計画系論文集、査読有、78 巻 687 号、2013 年、pp.1143－1150、同上

③相模誓雄、近世期の能登国における加賀藩御蔵所の空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集、査読有、77 巻 682 号、2012 年、pp.2865－2872、同上

④相模誓雄、近世期の越中国における加賀藩御蔵所の空間構成に関する研究、査読有、日本建築学会計画系論文集、77 巻 676 号、2012 年、pp.1471－1478、同上

⑤相模誓雄、近世期の越後国における郷蔵所の空間構成に関する研究、査読有、日本建築学会計画系論文集、77 巻 675 号、2012 年、pp.1179－1186、同上

⑥相模誓雄、近世期の信濃川流域における長岡藩御蔵所の空間構成に関する研究、査読有、日本建築学会計画系論文集、76 巻 669 号、2011 年、pp.2191－2197、同上

６．研究組織

(1)研究代表者

相模　誓雄（SAGAMI, Chikao）
宮城大学・事業構想学部・助教
研究者番号：２０２９５４０５